

「もとぶ」を巡る

モデルコース

かすり工芸をたどるコース

村シーサーで邪気を払った後、かすりの道を織りの音を聞きながらゆったり散策。

かすり会館出発

本部シーサー

丸正商店

(有)大城廣四郎織物工房

糊付け張り伸ばし場

かすりの道

古民家謝名家

大城織機製作所

カンナ通り



Where is 本部?

もとぶはどんなところ？

人口(男)..... 951人

(女)..... 898人

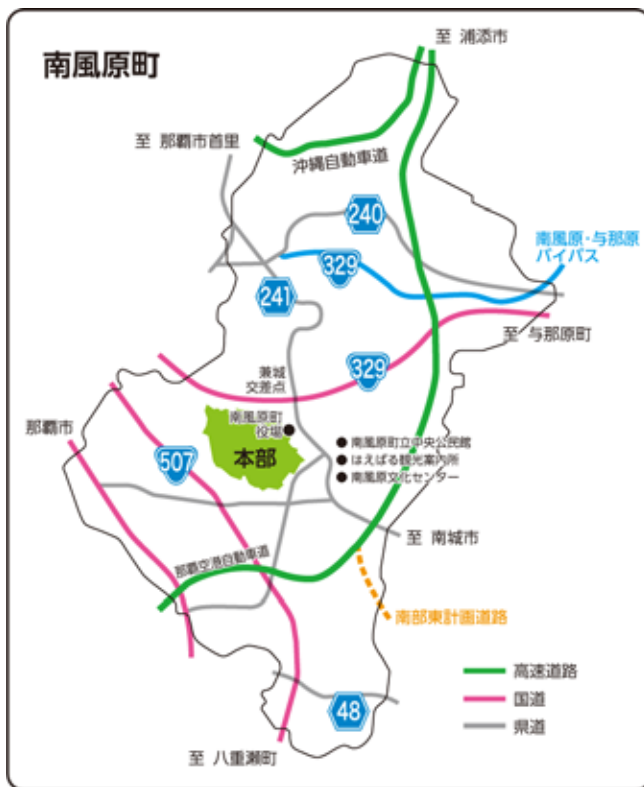
合計1,849人

世帯数.....759世帯

面積.....41.2^{ヘクタール}



(2023年12月末現在)



作成：南風原平和ガイドの会(2011年度)

発行・改訂：一般社団法人 南風原町観光協会(2023年度)

住所：沖縄県島尻郡南風原町字本部 158 番地

電話：098-851-7273 FAX：098-851-7109

メール：chiiki-machidukuri@haebaru-kankou.jp

HP: <https://www.haebaru-kankou.jp/>



シャーラ・トントンが聞こえる



もとぶ 本部

南風原町

HAEBARU MOTOBU



一般社団法人 南風原町観光協会

★ 本部おもしろ話 ★

本部赤嶺



ムラ北側の高台には「本部赤嶺」屋敷跡があります。首里王府時代の豪農だった赤嶺は、十五夜などの慶事にはムラの人を招き入れ「獅子舞」や「村芝居」を披露して交流を深めていました。しかしある年、国王を歓待するために過度な贅沢をしたり、無断で石橋を架けようとしたことが王府の怒りに触れ、打ち首の刑に処せられることになったそうです。赤嶺は、その時に獅子舞の獅子頭と龕(ガン)をムラに寄付しました。その後、子孫が途絶えてしまった赤嶺家の仏壇は、ムラの人で管理するようになり、財産の全てをムラに寄付した赤嶺の恩恵は、その後の後世にも受け継がれています。赤嶺が寄付した獅子頭は戦後に消失しましたが、現在はムラの人々の力で復元されて公民館に保管されています。

石獅子

石獅子(シーサー)はムラの守護神。かつては2匹いて、シー(精)高く火の玉を持つと思われていた東風平八重瀬岳に向けて、「邪気返し、火事よけ」として建てられました。



ところが隣の照屋が「本部のシーサーは照屋を向いてけしからん！」と激怒。照屋シーサーを本部に向けて建てたのです。当時、両ムラの中のユンヌカーという井戸の取り合いをしていたのが、シーサー争いのホントの理由とか。もちろん今は誤解も解け、仲良し隣りムラです。

このシーサー、ご覧のとおり形や表情が一般のシーサーとちがってユニークなので知られていません。沖縄戦で消失したもう一匹は、どんな顔形をしていたのでしょうかね。

緋の村

かつて女性たちは小学校を出るとかすり織りを母から習い一生の仕事としてきました。本部に生まれ育ち、本部の人と結婚してずっと本部に住む年配の女性たちは、かすり織りの名手。

伝統工芸「琉球緋」は、沖縄戦で織り機や糸、全てが消失しましたが、女性たちの織りの技だけが残りました。それを知った地元の大工の大城さんが、見よう見真似で織り機を製作します。これが本部の戦後復興の第一歩でした。

だから今も自分達で織ったかすりをステキに着こなしているのですよ。



花織のタベストリー



花とかすり織りの村 南風原町

本部

青空にはえる鮮やかなカンナの花。道を行くと緑の庭木の間から、シャーラ・トントン、シャーラ・トントン、機はたの音。なぜか懐かしい本部の景色。



13 古民家(謝名家)

南風原に多いセメント瓦。
今では珍しくなりましたが昔を知る上で貴重な水タンク、ヒンプンも残っています。
南風原町観光協会が行うまち歩きツアーの際休憩場所としても使用しています。

12 丸正商店

沖縄の琉球かすり織元の【丸正織物工房】の直営店舗です。
工房がある南風原町にて作られてきた『琉球かすり』をデザインのベースに反物と同様に製織したストールの他、小物などを販売しています。
小さな古民家で機織りしながら営業しています。



11 カンナ通り

2005年、区長の思いで植えられたカンナは道行く人の足を止め、いつの間にか区の新名所になりました。
ハジカサー(恥すかしがり)な男達のお蔭で花も元気に育っています。



10 ガン屋跡ほこらの祠

故人をお墓まで運ぶ沖縄独特の『龕(ガン)』を保管した場所です。
当時への感謝の思いを込めて、今でも旧暦10月に拝みをする行事があり、その日はヤギを食べる習慣が残っています。



9 かすりの道

1994年に整備された本部と隣接する照屋、喜屋武にまたがる工芸の道。
瓦やレンガをはめ込んだ舗装で、道の両側に立ち並ぶはた織工房から機はたの音が「シャーラ・トントン」と、のどかに響いてきます。



8 大城織機製作所

戦前は県内各地にあった機屋さんも、今ではここ大城さんだけ。戦後、織機製作を復興させたお父さんの技を継いだ二代目義政さん(国選定保存技術保持者)が造りだす機はたは、一台一台がオリジナルのもの。県内離島や、遠く東北地方からの注文もあるそうです。

1 公民館(むらや一)

公民館の中に仏壇を配している珍しい所です。
代々の区長はこの仏壇を守るのも大切な仕事。
この仏壇にムラ人の健康と幸せを祈ります。



2 本部殿内(どうんち)

本部里主(武寧王の五男、本部王子)が移住してきて住んだといわれています。今はムラの拝所が全部まとめて祀られるムラ一番の聖地です。沖縄の「祖先崇拜」の考え方に触れてみましょう。



3 石獅子(村シーサー)

う〜ん、どっかで見たことのある顔…? 村の守り神として立っています。隣の照屋との仲間がいにこのシーサーもまきこまれてしまいました。さあ大変!
[町有形民俗文化財] (☆裏面に続く)



4 かすり会館

琉球かすりの製造工程を見学、製品の即売も。高台なので、サトウキビ畑に囲まれたムラの静かなたたずまいを一望できます。



5 (有)大城廣四郎織物工房

織りの名人・廣四郎さん(故人)の工房は三世代にわたってかすりを織っています。
着尺をはじめ、楽しい小物も揃っていて、お店の2階では織り子さん手織りの業が見学できます。



6 湯乃し屋 大城

湯のしは、分業として専門的に行われています。
織り上がった反物は丁寧に水あらいをし、湯のしを行います。青空の下で、干した反物が風にそよぐ光景は実にのどか。



7 イジュンガー公園

旧暦お正月の早朝、本部の人はこの井戸(今はない)の水を家々の火の神と仏壇にお供えしました。公園の周囲に草木染め用の樹木が植えられ、人々の憩いの場になっています。

